

新しい年を迎えて

会長 高橋志保彦



新年明けましておめでとうございます。会員の皆様お健やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

昨年から新しい体制となりました。昨年5月の総会は、台湾トイレ協会（台湾衛浴文化協会）の代表団がお見えになり和やかにそして華やかに催すことができました。鎌田元康副会長の基調講演も衛生工学に関する大変内容の豊かなもので勉強になりました。

11月10日には第29回全国トイレシンポジウムが工学院大学、新宿区、新宿駅周辺防災対策協議会と共催で「地域・教育・医療・防災」のテーマで開催することができました。坂本菜子副会長が昨年に引き続き実行委員長を引き受け、実行委員の方々の大変な努力と工学院大学の先生方のご尽力と新宿区のお力添えで大変充実したものになり成功裡に終了することができました。韓国からの参加もありました。グッドトイレ選奨も昨年からシンポジウムの

1セッションから独立し、小林純子副会長が部会長の企画運営部会で取り扱われ、新しいプログラムに発展いたしました。

メンテナンス研究会もノーマライズ研究会も活発に活動を続け、その実行力に敬意を表します。また、書籍出版の編集委員会も立ち上がり、出版社も決まって動き出しています。HP委員会も活発に活動し、外部からの問い合わせが大変多くなりました。それらにどなたが応えられるかの情報が足りません。会員の皆様にはトイレに関するいろいろな分野でのエキスパートがおられると思いますが、これまで個人情報の誤った流出・侵害を恐れて名簿が作られておらず、情報交換がままならない状態です。今年は個人情報の保護を前提として名簿作りができないか検討したいと思います。

社会の中でトイレの大切さが話題に乗るようになり、マスコミも取り上げています。大いに結構なことだと思いますが、軽佻浮薄、おふざけの取材にはくみせず、ユーモアはありながら真面目な取り組みを維持していきたいと思います。

また今年は、地方自治体や団体からもイベントへの協力を求める声がかかる動きもあります。皆様方のお力添えを頂きたいと思っています。

当協会の多様な活動の中で、昨年から事務局を引き受けられた佐竹事務局長もますますその手腕を発揮されることを期待します。

今年は午年、みんなでトイレフィールドを駆け巡り、トイレ文化の醸成のため力を合わせて行きたいと思っています。

都市とトイレ／第29回全国トイレシンポジウム

「地域・教育・医療・防災」 レポート

実行委員会事務局長 森田 利香

◆日時・会場

2013年11月10日（日）くもり

工学院大学 新宿校舎

東京都新宿区西新宿1-24-2

◇講 演：2013年11月10日（日）

10時00分～17時30分

工学院大学 アーバンテックホール 【A-0312】

◇懇親会：2013年11月10日（日）

18時00分～19時30分

工学院大学 生協食堂（7F）

◇企業展示：2013年11月6日（水）～11月10日（日）

工学院大学 1F アトリウム

◇グッドトイレ選奨展示：2013年11月10日（日）

10時～17時

工学院大学 アーバンテックホール ロビー

◇医療福祉環境エビデンス研究会展示：2013年11月10日（日）10時～17時

工学院大学 アーバンテックホール ロビー



◆主催：

日本トイレ協会・工学院大学・新宿区・新宿駅周辺防災対策協議会

◆後援： 12団体

国土交通省観光庁、一般社団法人日本建築学会、公益社団法人日本建築家協会、一般社団法人日本医療福祉設備協会、一般社団法人日本医療福祉建築協会、公益社団法人国際観光施設協会、医療福祉環境エビデンス研究会、都市環境デザイン会議、一般社団法人日本福祉のまちづくり学会、NPO給排水設備研究会、一般財団法人自然公園財団、全国管工事業協同組合連合会（順不同）

◆協賛 10社：

TOTO株式会社、株式会社LIXIL、一般社団法人日本衛生設備機器工業会、日野興業株式会社、株式会社シミズオクト、湘南ステーションビル株式会社、中日本ハイウェイ・メンテナンス中央株式会社、アメニティ、株式会社アメニティ、日本カルミック株式会社

◆開催趣旨：概要集に掲載の通りで省略

◆プログラム：概要集に掲載の通りで省略

◆動員：211名

内訳

○講師	5名
○実行委員・スタッフ・トイレ協会理事	41名
○協賛・広告企業	17名(社)
○当日登録者・懇親会出席者	46名
○当日登録者	100名
○報道関係者	2名

【受け付け体制ならびに動員について】

- ・今回は事前登録は実施していない。懇親会出席者のみ、事前受付を実施。
- ・原則、来場者全員に受け付けを行っているため、ほぼ人数の把握はできていると見込まれる。
- ・参考数値として、昨年度（金曜日開催）は約260名の動員。
- ・当日の7時半ごろ、震度4～5の関東地方における地震が発生。
- ・前日から当日にかけて、工学院大学にて面接による入試が行われていた。朝から午前中にかけては大学の入り口、エレベーターでは受検者でかなりの人数を占めていた。
- ・日曜日の開催、地域がら人通りは少ないエリアで、地域の一般来場者はあまり見られなかった。

◆協賛金：10社 175万円

TOTO(株) (60万円)、(株)LIXIL (42万円)、一般社団法人日本衛生設備機器工業会 (38万円)、他7社は5万円×7社

◆概要集：

- 印刷部数：400部 ※表紙デザインは一間堂 芋田氏
- 販売対価：1000円
- シンポジウム当日販売数：88冊
- 概要集売上：88000円
- 講師・関係者配布：46冊
- 協賛・広告企業：78冊
- 当日残数：188冊

◆企業広告

- 18団体 (23P)
- 広告収入 30万円

<無償>

(株)TOTO、一般社団法人日本衛生設備機器工業会、LIXIL(株)、湘南ステーションビル(株)

日本カルミック(株)、(株)シミズオクト、アメニティ/ 星野延幸さん、中日本ハイウェイメンテナンス中央(株)、日野興業(株)、(株)アメニティ※一部有償

<有償>(株)ヤングトラスト、(株)レンタルのニッケン、(株)総合サービス、(株)有紀(栗本商事株式会社)、(株)みうら折りラボ+芙蓉パーライト(株)、コンビウィズ(株)、アントイレプランナー、寅太郎氏

◆広報・告知

- 防災ウィークの一環として告知
- チラシ配布（1700枚）
- H/P告知
- 日本トイレ協会会員宛ての案内
- その他

◆グッドトイレ選奨：

作品数：15作品

※詳細は、グッドトイレ選奨委員会より、報告

◆企業展示：

10社

クリニス(株)、日野興業(株)、(株)総合サービス、杉田エース(株)、一般財団法人自然公園財団、東京サラヤ(株)、一般社団法人日本衛生設備機器工業会、栗本商事(株)、アングス産業(株)、(株)レンタルのニッケン

※今回は、シンポジウム当日のみの展示ではなく、新宿区の防災ウィークの一環として実施し、11月6日～10日わたって展示を行う。展示スペースが工学院大学のオープンスペースであったため、当初は盗難などの心配も懸念されたが、特に大きな問題はなかった様子。

◆その他の展示：

- 医療福祉環境エビデンス研究会

◆全国トイレシンポジウム実行委員会およびスタッフの協力

役員	氏名	所属
実行委員長	坂本 菜子	日本トイレ協会副会長／コンフォート研究所代表
委員(協会)	高橋志保彦	日本トイレ協会会長 / 建築家 / 神奈川大学名誉教授
委員(協会)	寅 太郎	日本トイレ協会 理事 / (株)レンタルのニッケン 取締役
委員(協会)	木内 雄二	日本トイレ協会 理事 / TOTO(株) コミュニケーション本部 営業情報部担当課長
委員(協会)	倉田 丈司	日本トイレ協会理事 / (株)LIXIL 経営企画・管理本部・渉外管理部商品技術開発部長
委員(協会)	白倉 正子	日本トイレ協会 理事 / アントイレプランナー 代表
委員(協会)	新妻 普宣	日本トイレ協会 / (株)総合サービス 代表取締役
委員(協会)	西田 涼子	日本トイレ協会 / (株)シミズオクト 施設管理本部施設管理部グループ長
委員(大学)	柳 宇	工学院大学建築学部建築学科 教授 / (博士 / 工学、公衆衛生学)
委員(大学)	村上 正浩	工学院大学建築学部まちづくり学科 准教授 / (新宿駅周辺防災対策協議会担当)
アドバイザー	長澤 泰	工学院大学 副学長 / 理事 / 建築学部長 建築学科教授 工学博士
実行委員会事務局	森田 利香	全国トイレシンポジウム実行委員会 事務局
協会事務局長	佐竹 明雄	日本トイレ協会事務局長

今年度は、日本トイレ協会の実行委員メンバーに加えて、工学院大学の長澤副学長、柳教授、村上准教授に実行委員として加わっていただいた。

特に村上先生には、細部にわたってご支援をいただいた。シンポジウム前日の準備では、シミズオクトから2名のスタッフ、および工学院大学の学生6名、シンポジウム当日は、シミズオクトから2名のスタッフ、アメニティから4名、工学院大学の学生10名のご協力を頂いた。

【 当日の風景 】



総合司会 山本耕平理事



趣旨説明 坂本菜子実行委員長



主催者挨拶

日本トイレ協会 高橋志保彦会長氏

工学院大学 長澤泰副学長



新宿区危機管理課 松田浩一課長



【基調講演】



工学院大学 藤森照信教授





社会福祉法人三井記念病院 金子八重子看護部長

【基調報告】



【グッドトイレ選奨紹介】

【プレゼンテーションセッション】



【パネルディスカッション】

コーディネーター 工学院大学 村上正浩准教授

パネリスト 新宿区危機管理課 松田浩一課長

防災コンサルタント 秦 好子氏

レンタルのニッケン 寅 太郎取締役



【総括】 鎌田元康副会長



←【展示／医療福祉環境エビデンス研究会】



【展示／グッドトイレ選奨】→

【企業展示】



【懇親会】



グッドトイレ選奨 授賞式



長澤先生誕生祝のサプライズ



みんなで輪になり「アロハオエ」

2013年グッドトイレ選奨 報告

グッドトイレ選奨委員会事務局
(日本トイレ協会理事会 企画部会内)

*応募作品：15点

*投票者数：一般 113名

審査委員（会長、副会長、理事、事務局長） 16名

*審査方法：当日シンポジウム参加者による投票と、事前の審査委員による投票を合わせて、最終的に、当日の審査委員会（委員長は会長）で選定

*結果 グッドトイレ選奨 5点 グッドトイレ入選 6点

グッドトイレ選奨

最北端の交流拠点を象徴する「マチの灯台」

北海道日建設計

トイレ清掃の湿式清掃から乾式清掃への変化と取組

中日本ハイウェイ・メンテナンス東名株式会社

お客様のお声をトイレに ～18年間継続したトイレの日アンケート 1994年-2011年～

湘南ステーションビル株式会社

トイレの情報誌「あさがお」の発行

東日本高速道路株式会社 関東支社 あさがお編集委員

高速道路のトイレにおける“KSS活動”

中日本高速道路株式会社 岐阜保全・サービスセンター

中日本ハイウェイ・メンテナンス名古屋(株) 岐阜事業所

グッドトイレ入選

浦和ひなどり保育園 0-1歳児用のトイレ

浦和ひなどり保育園

自然景観を活かしたアーバンなトイレ空間の創造（圏央道厚木PA内回り）

中日本高速道路株式会社 東京支社 建設事業部 施設建設チーム 鈴木健

厚木工事事務所 施設工事班 中村貴男

和みを追及したトイレ空間の創造（圏央道厚木PA外回り）

中日本高速道路株式会社 東京支社 建設事業部 施設建設チーム 鈴木健

厚木工事事務所 施設工事班 中村貴男

陶器の郷（伊万里・有田）のおもてなしのトイレ 伊万里有田共立病院（佐賀県）

株式会社 日建設計

トイレ汚れ対策の迅速化に向けた取り組み（東名高速道路足柄SA）

中日本高速道路株式会社 東京支社 御殿場保全・サービスセンター 川又慎治

東名高速道路 愛鷹PA改修工事の概要

中日本高速道路株式会社 東京支社 富士保全・サービスセンター 伊藤佑治

「グッドトイレ選奨」として、再開を始めて5回目の取り組みとなりました。応募点数は15点あたりで推移していますが、初めての方の応募がある一方、引き続きの応募者もあり、少しずつ定着し始めていることを実感しています。

今回から、運営の体制もトイレシンポジウム実行委員会ではなく、トイレ協会理事会での企画部会のメンバーによるグッドトイレ選奨委員会が中心となりました。

作品のタイプとしては、設計7点、メンテナンス：4点、取組み：2点、啓発：2点で、分野も多方面にわたっており、選奨・入選には、どの分野からも選定されました。新しい試みや継続の力がひしひしと感じられる内容など、パネル作品としても力作ばかりでした。

後日談ですが、選考された方からは、「大きな励みになります」とお礼の言葉をいただいたり、社内報や医療雑誌への掲載など、少しでも広がりにつながれば、ありがたいことです。

次回も、たくさんの応募をしていただけるよう、皆様に期待するとともに、各方面へのPRや応募掲載等に取り組んでいきたいと思っています。引き続き、よろしくお願いいたします。

グッドトイレ選奨委員会

(順不同、敬称略)

企画部会長	小林 純子	副会長	設計事務所ゴンドラ代表
委員	川内 美彦	理事	東洋大学 教授
委員	寅 太郎	理事	(株) レンタルのニッケン
委員	松田 芳夫	理事	(一社)全日本建設技術協会会長
委員	森田 英樹	理事	総合トイレ学研究者
委員	浅井佐知子	理事	設計事務所ゴンドラ

(文責：協会理事 浅井佐知子)



湘南ステーションビル・ラスカ平塚店のトイレ



東名高速道路 海老名SAのオゾン水による清掃

1. 上高地の冬はいつからいつまで

中部山岳国立公園「上高地」は、毎年4月25日にバスの運行が始まり、27日に開山して11月15日に閉山します。3000m級の山々に囲まれていても開けた谷では、この間の162日が「冬」になります。



<焼岳> ↑

春から秋には130万人の訪れがあるにも拘らず、冬の入山者は8,000人ほどです。このうち2割が冬山登山者で、8割は日帰りトレッキングで、さらにその6割は河童橋から白銀の穂高の雄姿を拝みに来る引率されたツアー客です。最も混む年末年始で1日あたり400人が入山しています。

12月に入ると連日の曇天降雪が当たり前になります。氷点下です。吹雪きます。吹き溜まりは其処かしこにできますが、強風に蹴散らされるためか、大積雪を見ることはありません。せいぜい2m程度です。入山は徒歩に限られ、宿は1軒のみが、お正月を挟んだ僅かな日数だけ開けます。あとはまったく無人になります。谷全体を見渡せば、上高地の奥の徳沢に唯一通年営業の山小屋があります。これとても小屋番は一人で寝場所を提供をするだけです。そうした事情を抱えるエリアなので、

2. 冬のトイレは増やせないという嘆き！冬のトイレが足りないという悲鳴！

冬の上高地のトイレは、大正池、中の瀬、バスターミナル、小梨平の4か所になります。最初の3つは吹雪いてなければ徒歩30～40分ほどの間隔で、小梨平は河童橋からほど近いキャンプ場にあります。よく考えられた具合の良い配置です。場所が場所だけに日常管理は不可能です。故にどこも1ブースしか開設していません。いつも氷点下ですから水は使えません。冬用トイレのブースはすべて汲取式です。日によって、時刻によって、場所によってトイレ待ちの行列ができます。吹雪かれているときは白い悪魔の咆哮です。全身雪まみれになるのに5分と掛かりません。そんなことですから、“冬山領域です。覚悟を持って来ていただきたい”として、上高地の冬の利用ルールが定められています。そのなかに、ごく当たり前の「冬期トイレ以外では用を足さないでください」があります。その必要性が生じた時には、夏場と違いササや灌木のヤブが雪に埋もれていますから、どこへでも入り込んで用を足すことが出来てしまうのです。それはとても拙いことなのです。ところで、上高地の関門である「釜トンネル」前は常時除雪の国道158号であり、定期バス停留所があり、いまや早朝入山すれば、容易に日帰りできるようになっています。となるとトイレでしなくちゃダメといわれれば、“あるのが当然、並ばなくて済むトイレ”という声が大きくなります。この隔たりが「トイレは増やせない」のに「トイレが足りない」という、当事者が互いに思いやりたくとも、そのユトリのない嘆きと悲鳴の膠着状態を生じさせるのです。



<釜トンネル(上高地への入り口)>

3. とにかく週に一度は清掃します

私の勤務先の上高地支部では週一のペースで冬期公衆トイレ（以下「冬トイレ」）の清掃に入山しています。うちの職員ですから無類の山好きです。勤め先公認で冬山に入れるとなれば準備の時から心浮き立つものがあります。冬山に浸るためだけならばです。そうはいくか〜というお目付役が私です。どうやら“東京コントロール”略して「東コンさん」という隠語が飛び交っているらしいです。



では、誌上ですが上高地に行ってみましょう。冬トイレを清掃しにです。

← 上高地冬期公衆トイレ案内図

ご心配なく。文章の中だけのことですから、吹雪いても雪崩れても何の懸念も危険ありません。

冬トイレを清掃するときの必需品は、熱湯入り魔法瓶2本、スコップ、ゴム手袋、丈夫な紙です。他に必要なホウキなどは現場に置いてあります。

旧安曇村の島々にある支部事務所を8時に出発です。

ここから釜トンネル前まで車で移動です。安曇三ダムと呼ばれる稲刻、水殿、奈川渡ダムを経て沢渡に入ります。冬の時期、かつてはここまでしか車は入りませんでした。今はいつも除雪され、その先に数知れずあった難所はすべてトンネルでクリアできるようになりましたが、それでも沢渡から先は路面凍結に注意しなければなりません。朝晩だと道路を横切る無数の沢水はすべて凍っています。上高地に近づくごとに昔どおりの難儀な道に後戻りします。坂巻温泉を過ぎれば、ほどなく釜トンネルです。対岸にはかつて中の湯温泉がありましたが、安房トンネル開削事業によって上部に移転しています。極寒期の作業帰りには、芯まで冷え切った身体を温めるため温泉に立ち寄る必要があるので助かっています。

いよいよ釜トンネルに入ります。長さは1,310mなのに出入り口の標高差が145mあるので、斜度は何と11%です。徒歩通過は休憩を入れて30分弱掛かります。ヘッドランプを灯して抜け出たところは産屋沢といい、大量降雨時には土石流が発生し、冬には雪崩の巣となっているところです。容易に近づけるのに、安易な接近を拒む関門です。冬は10時頃まで陽は当たりませんので、大量降雪でもしていない限りは雪崩の心配は回避できます。今はまだ9時15分です。今日もまた、沢の上部を窺いながら一人ずつ間を空けながら足早に通る過ぎるようになります。渡り切ったところでホッと一息休憩です。靴ヒモチェック、雪が多ければスノーシューを装着します。凍結していればアイゼンを付けます。歩き出してしばらく進み、尾根を一本、大きく曲がったところから晴れや高曇りの時には穂高連峰が見えてきます。その先が大正池です。最初の冬トイレです。確認して汚れがひどければ作業開始です。それほどでなければ中の瀬でもバスターミナルでも同様の手順を踏みながら、一番奥の小梨平トイレに向かいます。奥から手前に清掃を繰り返して下山というのが通常の段取りです。穏やかな日に田代湿原や森の中を歩いているときは極楽です。鼻歌交じりでバカ話に興じます。吹雪いているときは地獄です。雪への悪態と罵詈雑言の限りを胸中で呟きながら、帰りに立ち寄る温泉だけを希望の灯にしながら歩を進めます。上高地の平の中には危険か所がほとんどないことだけは幸いです。



田代湿原

4. どうやって掃除しているか

雪の多いときは冬トイレのドア周りの雪掻きから始めます。大正池トイレだけは焼岳からの吹風しによる雪溜まりに埋もれていますからドア前における雪の階段を作ります。こうしないと乱れた足跡のままの凍結した段差ができ、トイレに入るにも悪戦苦闘し、時には滑って転んでドアに衝突という事態を招くことになりかねません。他のトイレでは階段つくりは不要です。次にブースの中に吹き込んだ雪を掻き出します。ブロワーのベルトは回っているか、異音はないか、電灯は切れていないか、ペーパーはあるか、次回入山するまでの予備は十分かなど点検し、いよいよ掃除です。ホウキで掃いて、カチコチに凍り付いた汚れがあれば、湯を垂らし丈夫な紙でこそげ取ります。さらに湯を少しずつ使い棒ブラシで磨きます。



冬トイレ入り口の雪掻き ↑

掃除に使った紙があれば密閉して持ち帰ります。4か所ともこれの繰り返しです。力仕事と窮屈な姿勢での作業の連続です。降り積もった雪の中の往復の移動もありますから、気力と体力と冬山経験がないと続けられません。口には出しにくいのですが使命感もなければできません。

便器掃除 ↓



拭き掃除 ↓



便器を磨きつつ考えます。職員として給料を貰っているからか、山の自然が好きだからか、上高地を愛しているからか、頼りになる仲間、愉快的仲間がいるからか、まあいいや、早く終わらせて中の湯か坂巻で温泉に浸かり、運転はあいつに任せて湯上りビールだな、次の入山時にも晴れればいいな……………、とりとめもないことを思い浮かべているかと思えば、没我でもあり、まとまりのない思考で行っている冬の北アルプスの上高地のトイレ掃除はいつもこんな風で過ぎていきます。

極寒期には芯まで冷え切った身体を温めないとうなるか、そうしないと車に乗っても雪まみれの上着は脱ぐことができません。手全体がかじかんでハンドルは触れません。ペダルを踏む足先と足裏は感覚消失しています。冬トイレの担当者としてやらねばならぬ仕事です。分かっているのですが、なんでこんな思いまでして、嬉々としなないまでも苦にせずやっているか、そう自問自答する者が絶えず現れては担ってくれるおかげで、冬トイレ清掃はこれからも続いていくのです。（本稿は、自らの体験と現場担当者報告をもとに構成したのですが、すべて事実に基づいております） <協会理事 一般財団法人 自然公園財団事務局長>

行政とNPOが一体となった快適なトイレ県への実現へ

～ 富山県/NPO環日本海トイレフォーラムの歩み ～

環日本海トイレフォーラム 会長 津田伸也

はじめに

県外のお客さんが、富山県に来て、「トイレがずいぶんきれいですねえ。汚くて使うのがいやだと思
うトイレがありませんね。」こんな言葉を聞く富山県の担当者、大変うれしいと思うそうである。

富山県の「全国一快適なトイレ県」へのスタートは、昭和63年(1988)に始まった。日本トイレ協会の
設立は、昭和60年5月(1985)であり、遅れること3年である。当時の中沖富山県知事は、トイレを見れば
その家のことがよくわかる。同様に公共トイレを見れば富山県のことを良くわかるのであるから、是非、快
適なものにしようという施策を打ち出した。

富山県は、この年、快適な公共トイレ研究会を設置し、日本トイレ協会やさまざまな人々の協力を得なが
ら、推進の基本方針である「望ましい公共トイレのあり方」を策定し、快適な公共トイレの整備を推進する
こととした。

翌年(平成元年度1989)から、快適なトイレ推進セミナーの開催、モデル的な公共トイレ整備事業への
助成、グッドトイレコンテストの開催等の事業を開始し、快適な公共トイレの整備推進を図った。また、
このような取り組みが評価され、平成8年(1996)に、富山市において、「とやま国際トイレシンポジウム‘9
6」を開催し、富山アピールが採択された。近年は、山岳地に環境配慮型の公衆トイレ、山小屋トイレの整
備を進めている。

又、NPOの環日本海トイレフォーラムは、この「とやま国際トイレシンポジウム‘96」の開催を契機に、
このシンポに関係した人々の呼びかけにより、トイレに関心ある個人、団体によって、平成11年5月18
日に設立した。現在まで、小学生とトイレ調査、居宅介護家庭とトイレ調査、富山県トイレマップ、トイレ
フォーラムの開催など、トイレ環境の改善提案、トイレに関する情報の収集や提供などの活動を行っている。

このように、行政とNPOが連携・協力して快適なトイレ県を創ってきている。

今日に至る富山県のトイレ事情について、以下に紹介する。

(スタートの話)

富山県教育委員に就任(昭和56年)された故田中儀一郎(田中精密工業㈱社長)さんは、当
時、本田技研工業㈱の社長だった故本田宗一郎さんと教育談義をするうちに「文化の基本はト
イレにあり」と気づき、持論に発展していったそうです。中沖豊前県知事の思いとも合致し、その
提言を受け入れ、富山県の学校のトイレの改善・整備が進められるとともに、富山県のトイレ施
策の展開となったそうです。

富山県の「全国一快適なトイレ県」への歩み

年度	富 山 県	環日本海トイレフォーラム
昭和63	公共トイレに関する実態調査	
	「望ましい公共トイレのあり方」の策定	
平元	モデル的な公共トイレ整備事業への助成	以降 継続実施
	快適なトイレ推進セミナーの開催	
	グッドトイレコンテストの実施	
平2～7	↓	
平8	とやま国際トイレシンポジウム '96」の開催	
	快適な公共トイレ設計・維持管理マニュアルの作成	
平9	快適なトイレ整備調査の実施(海外)	
平10	快適なトイレ整備調査の実施(県内・国内)	
平11	山岳環境浄化・安全対策緊急事業(山小屋トイレへの助成)の実施(3施設)	フォーラム設立
平12	富山県快適トイレ推進プランの策定	「小学生とトイレ」調査(1)
	快適な山岳トイレの整備・改良事業への助成(3施設) (モデル的公共トイレ整備事業助成廃止)	
平13	快適な山岳トイレの整備・改良事業への助成(3施設)	「小学生とトイレ」調査(2)
平14	国際山岳年記念第4回全国山岳トイレシンポジウムin富山の開催	「小学生とトイレ」調査報告書の作成・配布
	快適な山岳トイレの整備・改良事業への助成(1施設)	「小学生とトイレを考える」フォーラム 「居宅介護とより良いトイレ環境」調査(1)
平15	立山・黒部での携帯トイレのネットワーク化	「居宅介護とより良いトイレ環境」調査(2)
	環境技術実証モデル事業(山岳トイレ技術分野 1) 快適な山岳トイレの整備・改良事業への助成(0施設)	
平16	環境技術実証モデル事業(山岳トイレ技術分野 2) NPOとの協働パイロット事業開始	「居宅介護とより良いトイレ環境」調査報告書の作成・配布 富山県トイレマップの作成 250 公共トイレの設備と管理状況調査(1)
	快適な山岳トイレの整備・改良事業への助成(1施設)	
平17	環境技術実証モデル事業(山岳トイレ技術分野 3)	公共トイレの設備と管理状況調査(2)
	快適な山岳トイレの整備・改良事業への助成(2施設)	
平18	NPOとの協働パイロット事業	富山県トイレマップの更新(追加170)
	快適な山岳トイレの整備・改良事業への助成(1施設)	まちなかトイレによる元気まちづくり事業の実施 ・大規模商業施設トイレ調査 ・「フォーラム IN TAKAOKA 元気なまちづくりとトイレを考える」を開催 …高岡市長とトイレを語る ・トイレガイドブックの作成・配布
平19	快適な山岳トイレの整備・改良事業への助成(2施設)	優良トイレ研修会(東京・神奈川)

平20	快適な山岳トイレの整備・改良事業への助成(2施設)	富山市長と女性のトイレ談義 ～トイレから元気な街を考える～街中トイレアンケートの実施
平21	快適な山岳トイレの整備・改良事業への助成(3施設)	10周年記念講演会
平22	快適な山岳トイレの整備・改良事業への助成(2施設)	小学校におけるトイレに関する調査(1)
平23	快適な山岳トイレの整備・改良事業への助成(2施設)	小学校におけるトイレに関する調査(2)
平24	快適な山岳トイレの整備・改良事業への助成(2施設)	例会、情報交換会等の開催
平25	快適な山岳トイレの整備・改良事業への助成(2施設)	東北大震災現地生活排水処理状況調査

備考 富山県とNPOとの『協働パイロット事業』

この他、トイレ掃除のボランティアやトイレ掃除を通じて心を磨く個人・団体が活動しています。

歩みの概要

昭和63年度

○ 望ましい公共トイレのあり方 — さわやか空間の創造に向けて — の作成

富山県快適な公共トイレ研究会を設置し、公共トイレに関する調査結果や全国の事例等とともに日本トイレ協会の協力を得て作成した。

新設・改築される公共トイレのガイドラインとしての活用を期待したものである。

望ましい公共トイレのあり方

★ 公共トイレ設置の基本的な考え方

これからの公共トイレは、利用者には清潔で明るく、身体障害者や子供にも使いやすく便利で設置場所がよく分かり、便所に入るというイメージではなく気楽に立ち寄ることのできる場所であることが志向される。また、管理者等からは、清掃が容易で故障の少ないもの、加えて都市のアメニティ性を高め街に不案内の観光客にも喜ばれるものが求められている。

そのため、従来から公共トイレに存在する「きたない」、「くさい」、「くらい」、「こわい」という固定的なイメージを払拭することをねらいに、

- ① 「きれい」な公共トイレ
- ② 「ゆとり」ある公共トイレ
- ③ 「やすらぎ」のある公共トイレ

の3つの目標に挑戦し、公共トイレが、誰にも快適な「さわやか空間」とすることを基本的な考え方として、条件整備を行うことが必要である。

★「さわやか空間」の創造に向けて

- ①「きれい」な公共トイレへのアプローチ → 維持管理、悪臭対策、照明対策
- ②「ゆとり」ある公共トイレへのアプローチ → 設置場所、誘導対策、空間の工夫
- ③「やすらぎ」ある公共トイレへのアプローチ → 気楽に利用、安全、アメニティ

公共トイレに関する調査

① 施設調査

調査対象 県・市町村 46機関

・調査施設 396施設（県 71施設 市町村 325施設）

② 利用者意識調査

調査対象 県政モニター 250人

・調査内容 維持管理状況、建物のイメージ、場所の適否、必要な設備（和式洋式等）

平成元年度



○ モデル的な公共トイレ整備事業への助成(平成11年度まで)

望ましい公共トイレのあり方に示された「さわやか空間の創造」を図るため、市町村が整備(改良)するモデル的な公共トイレへの助成を開始した。

[対象]① モデルトイレ整備事業 補助率1/3 限度額 500万円

② トイレの改良事業 補助率1/3 限度額 100万円

[実績] 平成11年まで ① モデルトイレ整備事業 延33施設

② トイレの改良事業 延69施設

○ グッドトイレコンテストの開催、さわやか賞の表彰(平成18年度まで)

国、県、市町村、JR等が設置するトイレを対象にコンテストを開催し、グッドトイレ審査会においてモデル的なトイレを「さわやか賞」として表彰するなど普及啓発を推進した。

[実績] 平成18年まで ① グッドトイレ部門 延64施設

② グッドメンテナンス部門 延18施設

○ 快適なトイレ推進セミナーの開催(平成18年度まで)

市町村等のトイレ整備担当者、設計者、施設管理者などを対象にきれいで利用しやすい快適なトイレの普及啓発を図るために開催した。

平成8年度

○ とやま国際トイレシンポジウム‘96」の開催

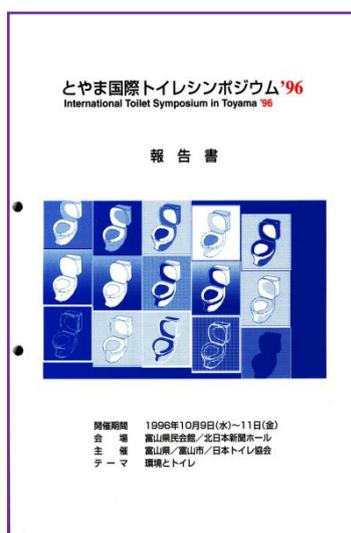
富山県のトイレがかなり改善されてきたこと及び富山県の国際化を図る観点から、「とやま国際トイレシンポジウム‘96」を「環境とトイレ」をテーマに開催した。このシンポでは、22の国、地域から800名あまりが参加し、各国のトイレに関する情報交換を行い、

① 地域のトイレ衛生事情の理解に努め、関係技術の向上を図るため、国際的なネットワークの形成を目指す。

② 安全で衛生的に使用でき、持続可能で環境にも配慮した費用効果の高いトイレの普及とし尿処理システムの確立に努める。」との「とやまアピール」が採択された。

- ・開催日 平成8年10月9日(水)～11日(金)
- ・場所 富山県民会館、北日本新聞社ホール、県庁前公園
- ・記念講演 田部井淳子(登山家)
- ・基調講演 Uno Winblad WHO、建築家 スウェーデン
Kathleen Meyear 作家、環境活動家 アメリカ
- ・研究事例発表 自然環境とトイレ、都市の公共トイレ、
- ・ワークショップ 国際子供トイレ会議 ー楽しく語ろう世界のトイレー
- ・パネルディスカッション 災害時のトイレと衛生、し尿の処理と資源化
- ・フリートーク トイレの改善と技術
- ・展示 見て触れて語り合おうトイレ展
- ・参加国・地域

アメリカ、フランス、イギリス、中国、香港、台湾、韓国、スペイン、シンガポール、チリ、メキシコ、オーストラリア、インドネシア、スウェーデン、フィンランド、ベトナム、インド、フィリピン、モンゴル、ウガンダ、世界保健機構(WHO)、日本



開催エピソード どうして富山に？

★ 仕掛け人は？

当時、富山市中心市街地再開発計画策定委員会の委員であった高橋志保彦氏（現日本トイレ協会会長）です。中沖富山県知事、正橋富山市長などが出席された委員会の席で、国際トイレシンポジウムの富山県開催を提案され、知事も市長も非常に良いことと同意し、開催することになりました。

★ 国際会議などの経験のない現場は、さあ、たいへん！

私は、快適なトイレ整備を担当する環境整備課の課長代理をしており、一般廃棄物係（係長兼務）で担当しるとのことで、日本トイレ協会とともに準備を進めましたが、大変な思いをしました。

台湾の呼称問題、副知事会食に現れないインドネシア代表、開会式が始まっているのにメインテーブルに同時通訳のレシーバーがない、フェアウエルパーティで参加者が多く、25分で食べ物が無くなるなど、冷や汗連続のシンポジウムでしたが、関係者の協力により、無事終了することができました。

白倉正子理事が学生ボランティアとして、大変元気に活躍していたことが印象的でした。

○ 快適な公共トイレ設計・維持管理マニュアルの作成

バリアフリーの必要性や環境負荷への低減等の情勢の変化に対共トイレのあり方」を見直し、快適な公共トイレの設計・維持管理マニュアルを作成。公共トイレの設計、施工応するため、昭和63年に作成した「望ましいトイレの維持管理に携わる方々に活用され、快適トイレ整備に役立つよう期待するものとして作成した。



平成9年度

○ 快適なトイレ整備調査の実施・・・海外トイレ事情調査

「とやま国際トイレシンポジウム`96」での富山アピール「各国のトイレに関する情報交換を行い、トイレ・衛生事情の理解に努め、トイレ関係技術の向上を図るため、国際的存ネットワークの形成を目指す」に沿い、国際シンポジウムで得られた各国とのトイレネットワークを活かし、各国のトイレ事情をアンケートにより実施した。

・ 調査対象国 13カ国

オーストリア、フィンランド、香港、インドネシア、シンガポール、スペイン、スウェーデン、フィリピン、アメリカ、イギリス、中国、フランス、ウガンダ

・ 調査内容

公共トイレの整備・管理状況、し尿処理状況、トイレの生活文化、トイレ・し尿処理に関する先端事例

平成10年度

○ 快適なトイレ整備調査の実施

これまでの県のトイレ施策をさらに広く展開し、いつでも、どこでも、だれでも快適に利用できるトイレ環境の創造を図ることを目的として、「富山県快適なトイレ整備推進プラン」を策定することとし、同プランを策定するに当たり、県内の各種トイレの実態把握や課題の抽出を行うとともに県外での優れたトイレの整備事例について調査を実施した。

① 県内トイレ実態調査

- ・ 調査対象 …… 調査数 1,117 施設
公共トイレ(773)、学校のトイレ(97)、山のトイレ(57)、事業所のトイレ(61)、
家庭のトイレ(102)、その他(河川敷、海辺、震災時、工事現場)のトイレ(27)

- ・ 調査内容
場所、設備、利用状況、維持管理・清掃状況、快適性、工夫、問題点、対応策等

② 県外の優れたトイレの事例調査

- ・ 調査対象 調査数 49 施設
公共トイレ(6)、学校のトイレ(8)、山岳地のトイレ(11)、事業所のトイレ(12)、
家庭のトイレ(6)、その他(河川敷、海辺、震災時、工事現場)のトイレ(6)
- ・ 調査内容
設備、維持管理・清掃弱者対応、いたずら対策、節電・節水対策、有料・チップ制、住民参加、
トイレ教育、し尿処理、快適性、工夫、問題点、対応策等

平成11年度

○ 山岳環境浄化・安全対策緊急事業の実施(環境省補助事業 18年度まで)

環境庁(現環境省)では、登山者の増加に対応して、山小屋のし尿による周辺環境への影響が深刻化していることを背景に、山小屋事業者の排水・し尿処理施設等に助成することとしたことから、富山県は、山岳地帯の山小屋への積極的導入を推進した。

- ・ 補助率 1/2
- ・ 実績(H18まで) 14施設 補助金総額 288,043千円

○ 環日本海トイレフォーラムの設立・活動開始

さまざまな立場や視点から、トイレに関心を持つものが集まり、トイレ事情を調査研究し、日本トイレ協会をはじめ、トイレ関係者との交流を深め、トイレ文化の創造と推進に寄与することを目的に設立した。設立総会では、故西岡秀雄日本トイレ協会会長に記念講演をお願いし、一般参加者も100名を超えた。

- ・ 設立 平成11年5月18日
- ・ 会長 金岡トモコ
- ・ 会員 27名 大学教授、教諭、建築士、公務員、会社役員等

(設立趣旨)

豊かな自然環境に恵まれた富山県は、より住み易い県とするため「生活立県」を標榜し、様々な観点から生活環境の整備に取り組んでいることはご存知の通りであります。公共トイレについても、「公共トイレ改善事業」や「モデルトイレ整備事業」といったソフト事業を実施する等他県先駆け多面作戦を展開し推進してきた結果、グットトイレづくりへの機運が盛り上がり、実に短期間に飛躍的にグリードアップし県民からも高く評価されました。そして、1996年開催されとやま国際トイレシンポジウム、96」では、富山県が公共トイレの先進県であることが認知され、地域から世界に情報発信できることを関係者に確信させる機会となりました。

今、21世紀を間近に控え、時代の思考は大きく変化し、環境・文化・福祉等により価値を見出そうとしております。そのことはトイレに対しても新しいハードルが設定され見直しが求められております。例えば、環境にやさしいトイレ、様々な人々のバリアを取り除いたトイレ、観光地や学校のトイレ、そして利用者のマナーの向上等、量的な問題、質的な問題等取り組むべき課題が山積しております。

そこで、様々な立場や観点からトイレに関わってきた私達は、日本海沿岸や対岸諸国・地域の人達と共に、環日本海地域の立場で世界への情報発信の一拠点になるという夢を持ちながら、トイレ文化の創造を目指して提案型の活動をする会を設立したいと考えました。しかし、本音は、トイレをキーワードにした異種交流の和やかなトークサロンになればと願っております。

平成11年5月18日

げ、報告書として取りまとめ公表した。

また、施設完成後その学校で「小学生とトイレを考える」フォーラムを開催した。

なお、この事業には、財団法人富山第一銀行奨学財団及び富山県建築士会のとやま地域貢献活動センターの助成を受けた。

【平成12年度】

小学校での排泄やトイレに関する意識調査（アンケート調査）

- 《調査対象》 富山県小学校養護教諭 132名
- 《調査内容》 ① 問題の有無 ② 清掃状況 ③ 排泄指導 ④ 児童の排便意識
⑤ 排泄問題と保健室 ⑥ 保護者の排泄への関心度

【平成13年度】

小学生の学校トイレに対する意識（アンケート調査）

- 《調査対象校》 富山県の呉東地区・呉西地区・中央地区の三校
- ① 入善町立桃李小学校 平成12年に統合新築
② 富山市立堀川小学校 昭和43年に建築
③ 砺波市立出町小学校 昭和28～33年に改築 平成13年新築
- 《調査児童数》 総数 627名 …… 男子 301名、女子 326名
- ① 入善町立桃李小学校 185名 3年生～6年生
② 富山市立堀川小学校 255名 4年生～6年生
③ 砺波市立出町小学校 185名 4年生～6年生
- 《調査内容》 ① 自宅トイレの様子 ② 学校トイレに対する評価と排便行為
③ 望ましい学校トイレ など

家庭での小学生のトイレと排泄に関する調査（保護者へのアンケート調査）

- 《調査対象》 ① 入善町立桃李小学校保護者 193名
② 富山市立堀川小学校保護者 116名 計 467名
③ 砺波市立出町小学校保護者 158名
- 《調査内容》 ① 家族の様子 ② 家庭のトイレの様子 ③ 排泄の指導 ④ 日頃の問題

【平成14年度】

報告書の配布

報告書は、CDにして、富山県内の市町村教育委員会、小学校、中学校の全校に配布した。



小学生とトイレを考えるフォーラムの開催(9月)



最近住宅をはじめ身近な公衆トイレが快適になり、学校のトイレも改善されてきているが、まだ十分とは言えず、排泄の姿勢の変化にともなう家庭での躰も重要である。

小学生のトイレに関する調査結果を踏まえ、児童にとってのより良いトイレ環境とはどのようなものかについて小学生2名と教諭、専門家を交えて討論した。

場 所 砺波市立出町小学校

講 演 「小学生のトイレ環境について」

(小学生のトイレに関する調査結果を踏まえて)

パネルディスカッション 「小学生にとってのより良いトイレ環境について」

平成13年度

○ 環境配慮型山岳公衆トイレ整備事業の実施

立山・黒部等の山岳地域に富山県が整備する公衆トイレに環境配慮型トイレの導入を開始した。

H13	一の越公衆トイレ、鉢伏公衆トイレ	} 土壌処理方式
H14	弘法公衆トイレ、城山公衆トイレ	
H15	太郎兵衛平公衆トイレ、剣沢野営場公衆トイレ	
H16	別山乗越公衆トイレ、雲の平公衆トイレ	
H17	薬師峠野営場公衆トイレ	

平成14年度

○ 国際山岳年記念 第4回全国山岳トイレシンポジウム in 富山の開催

平成12年度に策定した「富山県快適トイレ推進プラン」に、山岳地域でのトイレが安全で衛生的に使用でき、環境にも配慮したトイレの普及とし尿処理システムの確立をめざすこととしたことを踏まえ、“自然との共生をめざして～21世紀型登山とトイレ整備～”をメインテーマに、2002年国際山岳年記念行事として開催した。

- ・基調講演 山を愛し、山との上手なつきあい方 市毛 良枝 (女優)
- ・分科会 ① 山岳トイレ改善のための選択手法
② 21世紀型登山のルールづくり
- ・現地研修 バイオ、土壌処理、浄化槽、焼却、乾燥、分別処理

○ 「居宅介護とより良いトイレ環境」調査

環日本海トイレフォーラムでは、居宅介護家庭の排泄とトイレの実態および介護者の悩みや意見について調査し、さらに望ましいトイレ環境について研究し、その結果を福祉関係者、介護者の方々に情報提供をすることを目的として実施した。この事業費の一部については、富山県建築士会のとやま地域貢献活動センターの研究助成を受けた。

- ・調査対象 富山県居宅介護支援事業者連絡協議会会員事業所のケアマネージャー
- ・調査方法 アンケート
- ・回答数 居宅介護家庭 492家庭の状況
- ・調査内容 ① 要介護者の状況 ② トイレの型式 ③ 排泄の状況 ④ 介護者の状況
⑤ 要介護者のトイレ環境 ⑥ トイレにあれば良い器具や工夫など
⑦ 排泄に関して嫌がること

報告書の配布

報告書は、富山県内の市町村、富山県居宅介護支援事業者連絡協議会会員事業所等に配布した。

平成15年度

○ 立山・黒部での携帯トイレのネットワーク化

登山中やむを得ず行われる野外排泄は、自然の浄化能力を超えると、湧水・溪流の汚染、悪臭の発生、野外生物の生態系のかく乱、自然景観の悪化につながるものが懸念されることから、登山者に携帯トイレを携行していただき、最寄の山小屋で回収するシステムを立山黒部地域で開始した。

- ・携帯トイレ 高密閉収納袋、便袋、水に溶けるティッシュペーパーをセットにしたもの
- ・販売・回収 立山・黒部地区の山小屋、ホテル、ターミナル等 45か所

○ 環境技術実証モデル事業（山岳トイレ技術分野）

環境省では、既に適用可能な段階にあり、有用と思われる先進的環境技術でも環境保全効果等について客観的評価が行われていないことから普及が進まない技術について、第三者機関が実証する事業が行われ、山岳トイレ技術分野について、立山地区で実施した。

【平成15～16年度】

- ・し尿処理方式 土壌処理方式
- ・実験場所 立山・一の越 標高 2,700m

【平成16～17年度】

- ・し尿処理方式 コンポスト処理方式(オガクズを用いた乾式し尿処理装置)
- ・実験場所 立山・大汝山 標高 3,000m

平成16年度

○ 富山県トイレマップの作成

富山県は、この年から、NPOとの協働パイロット事業を始め、その1つの事業として、インターネットによる富山県トイレマップの作成を公募した、環海トイレフォーラムは、この事業に応募・受託し、協働作業を行った。富山県は、公共トイレの設置状況を市町村、国等に照会し、そのデータをフォーラムに提供し、フォーラムは、公共トイレの場所、設備の内容、写真の撮影を行い、250施設を富山県トイレマップとして公表した。

また、平成17年度には、170施設の公共トイレの調査を行い、平成18年12月に追加、公表した。併せて、携帯電話によってもアクセスできるようにした。この事業には、富山県の委託料のほか、富山県建築士会のとやま地域貢献活動センターの研究助成を受けた。

ホームページには、17年4月の公表以来、現在まで61,067回（月平均約600回）のアクセ

スがあり、県民、観光客等に利用されている。

- ・掲載施設数 420施設
- ・掲載区分 市町村別、観光地、中心市街地、レジャー、多目的、キーワード検索
- ・地域区分 富山エリア、高岡・氷見エリア、砺波・五箇山エリア、滑川・立山エリア。黒部・宇奈月エリア
- ・掲載内容 トイレ名称、所在地、設備の概要(多目的、男、女、共用)、写真、地図

<http://www.toyama-toiletforum.jp/index.html>

携帯電話 <http://www.toyama-toiletforum.jp/i//>

HOME

TOYAMA 富山県 トイレマップ

トイレマップの案内
富山県内の主な公共トイレを紹介しています。
お出かけの際にご利用ください。

TOYAMA

目的から検索

市町村 観光地
中心市街地 レジャー
公共施設 商業施設
多目的トイレ キーワード検索 ← 地名、施設名

061067
携帯はこちらから
<http://www.toyama-toiletforum.jp/i/>

トイレの神様/植村花菜 You Tube kingre.cords

うんちのうた! 日本トイレ研究所
このトイレマップは、富山県と環日本海トイレフォーラムの協働(県とNPOとの「協働パイロット事業」)
で作成したものです。県内には、このほかにも多くの公共トイレがあります。順次、追加していく予定です。
お問い合わせにつきましては、★info@toyama-toiletforum.jp★に n を入れてくださいまでご連絡下さい。

お問い合わせ

○ 公共トイレの設備と管理状況調査 (H16 250 施設 H17 170 施設)

環日本海トイレフォーラムでは、富山県トイレマップの作成にあたり、公共トイレの場所、設備の内容、写真の撮影を行ったが、併せて、設備の詳細及び維持管理状況についての調査を行った。

《調査内容》

- ・ 施設の概要
- ・ トイレ全体のメンテナンス状況
- ・ 建物の照明
- ・ 多目的・車椅子用トイレ内の障害者対応状況
- ・ トイレ場所の案内サイン
- ・ トイレ入口のサインのわかりやすさ
- ・ 道路(通路)からのトイレまでの状況
- ・ トイレまでの(車イスが通れる)通路の状況
- ・ 工夫してあると思える箇所



○ まちなかトイレによる元気まちづくり事業の実施

富山県は、NPOとの協働パイロット事業として「まちなかトイレによる元気まちづくり事業」を公募した、事業内容は、街中トイレを考えるフォーラムの開催及び大規模商業施設トイレ調査と街中トイレガイドブックの作成である。環日本海トイレフォーラムは、この事業に応募・受託し、協働作業を行った。

- ・ 「フォーラム IN TAKAOKA 元気なまちづくりとトイレを考える」を開催

市街地の活性化に向けてさまざまな観点から賑わいを取り戻す取り組みが行われているが、トイレの視点からみると、町の中のトイレは、買い物客や観光客のニーズに十分に答えているのだろうか。また、今後のまちづくりには、どのような施設を整えたらよいのか、高岡市の実態を踏まえ、トイレの仏様のおいでる国宝瑞竜寺においてフォーラムを開催した。

宮口侗埴早稲田大学大学院教授の講演のあと、トイレトークには橋高岡市長も参加し、日本トイレ協会の上理事長、フォーラム会員とトイレ談義が行われた。

- ・ 大規模商業施設トイレ調査

富山県は、大規模商業施設へのアンケート調査を行い、そのデータをフォーラムに提供し、フォーラムは、トイレの場所、設備の内容、写真の撮影を行い、富山県トイレマップに追加して公表する。

《調査対象》 52施設 70か所

《調査内容》 施設概要、メンテナンス状況、建物の照明、案内サイン、入り口サイン、通路（車いす通路）、特色ある工夫、写真

- ・ トイレガイドブックの作成・配布・

大規模商業施設トイレ調査結果とともに既存のトイレマップのトイレデータを活用し、街中のトイレがわかるトイレガイドブックを作成した。障害者団体等へ配布した。

平成19年度

環日本海トイレフォーラムでは、より良いトイレの調査研究を行うため、東京トイレツアーを実施した。

調査トイレは、小林純子さんの Gondra が設計を手がけた、大丸、品川駅、東京駅、秋葉原の有料トイレを見学した。



平成20年

環日本海トイレフォーラムでは、富山市中心市街地などの未来に向けて、より良いトイレづくり、望ましいトイレづくりのために、元気な街づくりとトイレの役割について、みんなで考えることとし、富山市の中心街(グランドプラザ)を訪れる人に、街なかトイレのアンケート調査を実施した。グランドプラザを訪れた男女428人に行い、その結果を元に、「富山市長と女性のトイレ談義」を開催した。

最初に、設計事務所ゴンドラの代表、小林純子さんに「街とトイレと女性」～トイレへの提案として講演をしていただき、その後、小林純子さんをコーディネーターに、森 雅志富山市長と女性のトイレ談義、「トイレから元気な街を考える」を開催した。談義には、神戸市都市計画総局民間活力創造室ユニバーサルデザイン都市推進係の豊島純子さん、環日本海トイレフォーラムからは、理事・事務局長の小見美由紀さんが参加し、トイレ談義に花がさいた。



平成21年度

活動10周年を記念して、講演会を開催した。

講演内容 水洗トイレは古代にもあった —トイレのウンチ考古学—
 講師 黒崎 直 氏 富山大学人文学部教授
 開催日 平成22年5月13日(木) 18:00 ～ 20:00
 場所 富山市民プラザ マルチスタジオ

平成22年度～23年度

富山県の小学校におけるトイレに関する調査を実施した。

対象 富山県内の小学校 72校(202校中)
 調査方法 養護教諭へのアンケート調査
 調査内容 整備(改修)年、清掃状況、児童の使用状況、意識、問題点、課題等

平成25年度

東北震災生活排水処理事情調査を富山県環境保全協同組合青年部と共催で実施した。

調査日 7月6日～8日
 調査場所 石巻市 気仙沼市の災害復旧状況
 ・仮設住宅、復興屋台村等のトイレ事情

おわりに

トイレ政策全般を推進する国の所管省庁、県の所管部局がない現状の中、富山県のトイレ政策が効果的に行われたのは、知事の重点施策として推進されたことが大きいと思っている。また、所管部局が生活環境部であったことが大きいと感じられる。快適なトイレの整備を施策に掲げ、推進している自治体は、市町村に

は多いが、県レベルでは聞いていない。また、県の所管部局も営繕、建築等土木部局あるいは福祉部局である。

環境政策の目標は、快適環境の創出が使命であり、大気汚染対策、水質汚濁対策、廃棄物処理等の施策を県民の理解と協力を得て実施してきていることから、トイレ政策も公園や建築物にかぎられず、総合的、体系的に進めることができたのではないかと。また、トイレの建物、設備だけでなく、し尿という廃棄物処理、水質汚濁対策も必要な視点であり、それらの知識と経験を有した職員が政策を進めたことも大きな要素であったに違いない。同部は、自然保護も担当していることから、山岳地域への展開もスムーズに行われ、富山県の中部山岳国立公園内のトイレ整備は、日本一となっている。

また、環日本海トイレフォーラムは、初代会長が望ましい公共トイレのあり方、快適なトイレ推進プランの策定、とやま国際トイレシンポジウム’96の開催に携わった金岡トモコ富山短期大学名誉教授である。トイレ環境の改善、トイレ文化の創出という明確な活動目標を持ち、次々と具体的な事業を掲げ、活動を推進してきた。富山県トイレマップの作成は、象徴する活動である。NPOが社会活動の担い手として要請される時代に、必要な団体として活動してきたと考えている。

フォーラムは、設立以来14年が過ぎました。会員も高齢化し、行動力に陰りが見えますが、当初のサロン風のフォーラムとして活動を続けていきたいと考えている。

最後に、富山県及び当フォーラムは、西岡秀雄元日本トイレ協会会長、高橋志保彦日本トイレ協会会長、小林純子さん、山本耕平さん、上幸雄さん、坂本菜子さん、浅井佐知子さんをはじめ多くの方々にご助言、ご支援、ご協力をいただきました。心から感謝申し上げます。

(筆者紹介)

1946年生まれで、下水道設計コンサルタント、富山市下水道課を経て、富山県に奉職。廃棄物、水質環境保全、環境企画、国際環境協力、環境研究などの環境行政に携わり、平成19年3月生活環境文化部次長(兼環境科学センター所長)で退職したが、トイレ政策には、平成6年4月から携わった。妻を同伴してトイレ調査などを行ったが、平成8年に国際トイレシンポジウムを担当した。その後、現職(トイレに熱心な困った上司)で環日本海トイレフォーラムの設立にかかわり、設立後は、県との連携を推進しました。

金岡元会長や会員が熱心に、トイレの現地調査や意見交換会、フォーラムの開催・運営など、快適なトイレ環境の整備推進に熱心に取り組みました。



富山市街と立山連峰